

副田義也社会学作品集・全13巻

I 人間論の社会学的方法 (945枚) 総ページ数441

- 1 「社会的行為」(185枚) 1984年 有信堂『現代社会学辞典』
- 2 「社会問題の社会学」(181枚) 1989年10月 サイエンス社
- 3 「専門職業と現代社会」(179枚) 2015年 『参加と批評』第9号
- 4 「生活構造の基礎理論」(111枚) 1971年11月 有斐閣
- 5 「マルクス主義の性愛思想」(35枚)
1982年1月 有斐閣『ジュリスト増刊総合特集』
- 6 「フロイトにおける人間像——夢」(58枚)
東京女子大学『経済と社会』
- 7 「日本人の遊び」(40枚)
1980年10月 有斐閣『ジュリスト増刊総合特集』
- 8 「社会学の対象、方法と仕事」(101枚・要修正)
1984年3月 筑波大学『社会学ジャーナル』第7巻第1・2号
- 9 「データ収集の方法について 老年期の社会学的研究のばあい」(16枚)
1979年7月『UP』第81号、東京大学出版会。
- 10 「いわゆるアンケート調査について (上) (下)」(32枚)
1979年12月、1980年1月『UP』第86号、第87号。東大出版会
- 11 あとがき (7枚)

II 死者とのつながり (735枚) 総ページ数366

- 1 「死者とのつながり」(119枚) 2001年2月 岩波書店『死の社会学』
- 2 「死者に語る——弔辞の社会学」(400枚) 2003年12月ちくま新書
- 3 「自死遺児・再考」(63枚)
2013年1月 岩波書店『福祉社会学の挑戦』
- 4 「震災死体験の癒しの過程における『重要な他者』と『一般的他者』」(63枚)
2013年1月 岩波書店『福祉社会学の挑戦』
- 5 「不安論ノート」(58枚) 1977年、東京女子大学『経済と社会』
- 5 「死の社会学の全体構想」(20枚)
2008年3月 『死の社会学』科研費報告書
- 7 あとがき (7枚)

Ⅲ 老いとはなにか (910枚) 総ページ数426

老いとマス・レジャー (298枚)

- 1 「老いとゴルフ」(105枚) 2007年2月 『参加と批評』第2号
- 2 「老年期の投書」(58枚)
- 3 「老年期の性行動および加齢にともなう性行動の変化」(93枚)
1984年4月 中央法規出版『日本文化と老年世代』
- 4 「老年期の性行動について——英語文献による」(42枚)
1986年2月 金子書房『ライフサイクルと家族の危機 家族心理学年報
4』

老いの本質 (146枚)

- 5 「老いとはなにか」(15枚) 1991年8月 『コミュニケーション』
- 6 「老年期——精神と肉体」(53枚)
1986年11月 岩波書店『老いの発見1、老いの人類史』
- 7 「ある老年夫妻の生活」(53枚)
1981年 垣内出版『講座老年社会学Ⅰ 老年世代論』
- 8 「いじわるばあさん論」(25枚)
2000年5月 小学館『往生考——日本人の生・老・死』

老いの歴史社会学 (458枚)

- 9 「権利主体としての老年範疇の形成」(148枚)
2008年8月 岩波書店『福祉社会学宣言』
- 10 「排除客体としての老年範疇の形成」(310枚)
2013年3月 『参加と批評』第7号
- 11 あとがき (8枚)

Ⅳ 現代世界の子ども (912枚) 総ページ数498

- 1 『世界子どもの歴史・現代』(557枚) 1985年10月 第1法規出版
- 2 「家庭教育ノート」(約240枚) 1975年9月 第3文明社
- 3 「和泉子と犬たち」(約46枚)
- 4 「年少労働者の実態——沼津・三島地域における調査報告」(三溝信と共同執筆 (89枚) 1965年9月20日 法政大学『社会労働研究』
- 5 「交通遺児家庭の生活構造と生活問題」(100枚)
1980年3月12日 真生会社会福祉研究所『母子研究』No.3
- 4 あとがき (8枚)

Ⅴ 日本文化試論 (863枚) 総ページ数422

- 1 『日本文化試論』1993年7月 新曜社

Ⅵ 菊と刀・ふたたび (843枚) 総ページ数432

- 1 「書評セッション『「菊と刀」ふたたび』(407枚)、全体を収録する。「死者とのつながり」をのぞく。

1996年3月・1997年3月 「日本人の自己認識をめざして1・2」筑波大学『社会学ジャーナル』21号22号

書評とはなにか

閑説する文体への疑問

本歌どりの社会心理学 才子に答える

『日本文化試論』をめぐる若干の試論

町人文化の伝統 大人に答える

ベネディクトにおける「関係体」の倫理

対抗の論理 俊秀に答える

社会関係と Ethos

民衆は信頼に値するか 畏友に答える

学校教育とナショナリズム 歴史的素描

自分さがし 私自身に答える

書評・『菊と刀』を本歌とし著者独自の日本文化論を展開する

書評子への感謝

- 2 「現代における人間——欲望と認識についての断章」(206枚)
1965年4月 青木書店『講座現代社会学 1 社会学方法論』
- 3 「ナショナリズム・ノート」(63枚)
- 4 「北川隆吉とマルクス主義社会学」(55枚)
2016年11月 東信堂『歴史認識と民主主義深化の社会学』
- 5 「日本社会学のジンメル体験・断章—清水幾太郎のばあい」(41枚)
2001年6月、世界思想社『21世紀への橋と扉——展開するジンメル社会学』
- 6 「日本社会学におけるジンメル体験・断章—新明正道のばあい」(49枚)
2002年3月 『ジンメル研究会会報』第7号
- 7 あとがきにかえて「恥の文化 R・ベネディクト『菊と刀』」(22枚)
2010年9月 世界思想社『日本の社会と文化』

Ⅶ 福祉社会学宣言 (957枚) 総ページ数548

内務省の歴史社会学 (263枚)

- 1 「内務省の歴史社会学序章」(32枚)
2010年8月 東京大学出版会『内務省の歴史社会学』
- 2 「工場法と内務省」(139枚)
2010年8月 東京大学出版会『内務省の歴史社会学』

- 3 「内務省の映画検閲」(約69枚)
2010年8月 東京大学出版会『内務省の歴史社会学』

福祉社会学の方法 (82枚)

- 4 「社会変動と社会保障」(約23枚) 未発表
5 「対談 福祉と関連サービス」(約34枚)
1988年10月 中央法規出版『明日の福祉⑧ 福祉と関連サービス』
6 「福祉社会学の方法」(約25枚)
2001年10月 鉄道弘済会「社会福祉研究」第82号

福祉社会学宣言 (456枚)

- 7 『福祉社会学宣言』(456枚) 2008年8月 岩波書店。
はじめに
ケースワーカーの生態
だれのための老人福祉か
老人福祉は利用者の家族をどうあつかっているか
なぜ住民運動は老人福祉を阻害したのか
障害児殺しと減刑反対運動
福祉社会学の課題と方法
あとがき

震災の体験と物語 (188枚)

- 8 「震災の体験と物語」(22枚) 2001年2月 岩波書店『死の社会学』
9 「死別体験の博物誌」(加藤・遠藤先生と共著)(118枚)
2001年2月 岩波書店『死の社会学』
10 「東日本大震災・津波遺児家庭調査」(樽川・藤村・副田あ・加藤・遠藤・
株本・鍾・時岡・坂田・阿部・富井以上12名と共著)(48枚)
2013年3月 副田研究室『参加と批評』第7号

VIII 福祉社会学革命 (943枚)

- 1 『福祉社会学の挑戦』(444枚) 2013年1月 岩波書店
序
I 貧困問題と福祉の機能
生活保護における逆福祉システムの形成
貧者の権利とステイグマ
II ケアすることとは
ケアすることとは——介護労働論の基本的枠組
青い芝のケア思想
老人ホーム像の多様性と統1性
III 20世紀からの展望

日本文化の可能性
社会主義の不在と社会福祉の行方
20世紀素描——1998年3月・筑波大学・最終講義

あとがき

- 2 「社会の闘争モデルによる福祉社会学序説」(44枚)
2013年3月 東大出版会『シリーズ福祉社会学②闘争性の福祉社会学』
- 3 「ドラマとしての福祉 『シリーズ福祉社会学』刊行によせて」(11枚)
2013年8月 東京大学出版会『UP』
- 4 「貧困の社会思想史」(5枚) 1993年1月 潮出版社『潮』
- 5 「貧困の社会学」(103枚) 未発表
- 6 「母子寮の現状と将来像」(62枚)
1978年2月 真生会社会福祉研究所『母子研究』第1号
- 7 「母子寮論の最近の動向」(44枚)
1978年2月 真生会社会福祉研究所『母子研究』第1号
- 10 「ひとり親家庭研究の最近の動向」(67枚)
1987年6月『第27回関東ブロック母子寮研究協議会報告書』
- 11 「家族政策の展開と危機——現代日本における児童手当のばあい」(73枚)
1986年3月 有斐閣『現代家族と社会福祉』
- 12 「主体的な老年像を求めて」(57枚) 1978年1月 現代のエスプリNo126
- 13 「老年期の学習と教育」(37枚) 1978年1月 現代のエスプリNo126

IX 教育勅語の社会史 (939枚) 総ページ数411

- 1 『教育勅語の社会史』(914枚) 1997年10月 有信堂高文社

X 教育基本法の社会史 (737枚) 総ページ数389

- 1 『教育基本法の社会史』(737枚) 2012年6月 有信堂高文社

XI 日本人の社会心理 (約883枚)

- 1 「大葬をめぐる社会心理」(66枚)
2016年5月 副田研究室『参加と批評10号』
- 2 「東日本大震災と政治家たち」(21枚)
2011年7月10日 批評社「Niche」別冊3号
- 3 「比較イデオロギー試論」(約70枚) (未完・未発表)
- 4 「都市の社会心理」(36枚)
1973年5月 日本放送出版協会『都市化社会と人間』

- 5 「学校教育と日本社会」(130枚)
1992年1月 東京大学出版会『現代日本社会6、問題の諸相』
- 6 「校内暴力を考える」(37枚) 1983年5月 岩波書店『世界』
- 7 「朝倉泉」(31枚) 未発表
- 8 「青年期における占いの流行」(36枚)
1986年9月 金原出版『青少年の社会病理 精神科MOOK』
- 9 「性行動の社会的統制」(38枚) 1984年11月『青年心理47号』
- 10 「男性の性的社会化」(56枚)
1986年 東京女子大学附属比較文化研究所紀要47巻
- 11 「プライマリー・インポテンツあるいはセックスレスについて」(23枚)
1992年? 日本アクセル・シュプリング出版(メディカルトリビューン)『月刊セクシャルサイエンス』
- 12 「売春の政治学」(35枚)
1991年8月6日 岩波書店『シリーズ変貌する家族2 セクシュアリティと家族』
- 13 「未婚の母、を罪悪視する性愛意識」(21枚)
1972年11月 小学館『現代性教育研究』「連載講座 日本人の人間形成と性3 社会学」
- 14 「離婚と子ども」(21枚)
1984年4月 全社協養護施設協議会『離婚と子どもの人権』
- 15 「離婚についての二、三の考察」(22枚)
1994年5月 青土社『イマーゴ』第5巻第6号
- 16 「女性の未来」(30枚)
1985年6月 有斐閣『ジュリスト増刊総合特集第39号』
- 17 『遊びの社会学』(約144枚)
1977年5月 日本工業新聞社
はしがき
私にとって笑いとはなにか「欽ちゃんのドンとやってみよう!」試論
タウン誌小論 商品カタログと人生論のあいだ
欠落と豊饒の世代 井上陽水「傘がない」に寄せて
児童文化におけるグロテスクなもの「ガリヴァ旅行記」から怪獣マンガまで
- 18 現代歌謡の社会学(69枚)
1979年12月 日本工業新聞社
男性の成熟について「関白宣言」

XII マンガ文化 上 (914枚)

- 1 『マンガ文化』(436枚) 1983年11月 紀伊國屋書店
 - はしがき
 - マンガ・メディア論
 - 少年マンガ小史
 - 青年文化としてのマンガ文化
 - 劇画表現の構造と論理
 - 原作者小論
 - 劇画の変貌——「巨人の星」と「あぶさん」のあいだ
 - いい女たちの肖像
 - 少女マンガ管見——一九七七年
 - 成人女性コミックスの成立
 - コミック表現における「私」と「地域」
 - タフな被疎外者の肖像
 - 子どもとマンガ——「ドラえもん」人気をめぐる
 - 断章Ⅰ
 - 断章Ⅱ
 - あとがき

- 2 『現代マンガ論』(425枚) 1975年6月 日本経済新聞社
 - まえがき
 - I
 - パロディについて——東海林さだお「新漫画文学全集」
 - 現代日本におけるホワイト・カラーの状態——福地泡介「ドタコン」
 - 「ドボン氏」
 - 地平線からの呼び声——園山俊二「ギャートルズ」
 - 日常生活の思想——長谷川町子「サザエさん」
 - 好色・ナンセンス・反権力——黒鉄ヒロシ小論
 - 政治マンガの第三の領域——はらたいら「ゲバゲバ時評」など
 - II
 - 追跡譚——篠原とおる「さそり」、さいとう・たかお「ゴルゴ13」
 - 父親について——古谷三敏「ダメおやじ」、小池一雄・小島剛夕「子連れ狼」
 - 男と女——上村一夫「狂人関係」

三つのエッセイ——つげ義春の世界
憎悪について——榎岡かずお「おろち」劣等感と自尊心——「赤い靴」
と「ゲゲゲの鬼太郎」
巨人伝説の崩壊と再建——われらの怪獣はどこにゆくのか
附章
マンガ文化の社会学的考察
あとがき

以上12巻既刊

以下13～17巻、2022年4月より刊行予定

XIII マンガ文化 下 (882枚予定) 1

- 1 マンガはなぜ人びとの心をとらえたか (20枚)
1985年5月 有斐閣『大衆の文化』
- 2 マンガ総合図書館の提言 (20枚)
1994年6月 日本図書館協会『図書館雑誌』
- 3 『魅惑の少年マンガ』(317枚) 1968年7月 川島書店
〔「文明論」のぞく〕
 - I てみじかにプロロオグ
 - II 一九六七
変身譚——手塚治虫「バンパイヤ」
方法について——石森章太郎「サイボーグ009」
歴史における個人の役割——白土三平「忍者武芸帳」
 - III 一九六七～六三
自画像と想像力——怪獣ブウム小論
日常の世界——赤塚不二夫「おそ松君」
技術人と組織人——横山光輝「伊賀の影丸」
 - IV 一九六八
貧困の美学——水木しげる小論
女の子たち——少女マンガ論・断章
故郷喪失——さいとう・たかを「無用ノ介」
旋風はどこに吹きぬけるのか——ちばばてつや小論
 - V てみじかにエピロオグ

支配と抵抗 白土三平「ワタリ」小論 1969年11月 秋田書店『白土
三平選集14 ワタリ①

- 4 少年マンガにおける想像力の問題 楳図かずお「漂流教室」を素材として (20枚) 1977年5月 日本工業新聞社『遊びの社会学』
 - 5 13-3 「ゴルゴ13」はどう制作されているか (26枚) 1977年5月 日本工業新聞社『遊びの社会学』
 - 6 少年マンガの魅力 ひとりの愛好者の微視的感想 (20枚) 1977年5月 日本工業新聞社『遊びの社会学』
 - 7 『『ブラック・ジャック』はなぜ子どもの心をつかむのか 私の手塚治虫論』(46枚) 1994年9月・10月・12月 金子書房『児童心理』
 - 8 手塚治虫氏とNYに行く (37枚) 未発表
 - 9 「子どもは死の物語を必要とする」(22枚) 1994年7月 福武書店『季刊こども学』
 - 10 「悪、あるいは愛の飢えについて——柴門ふみ論」(22枚)
 - 11 「解説白土三平選集」(18枚) 1969年11月 秋田書店『白土三平選集14 ワタリ①』
- ほか解説 (未定20本、300枚ぐらいを予定)

XIV巻 『あしなが運動と玉井義臣』(978枚) 2003年3月 岩波書店

XV巻 『生活保護制度の社会史』(増補版) 2014年11月 東京大学出版会

XVI巻 『内務省の社会史』(増補版) 2018年5月 東京大学出版会

XVII巻 小説

(新潮新人賞受賞、芥川賞候補作『闘牛』、作家賞候補作『崖』などを含む24作約800枚)

収録巻未定

育英会関係 (170枚)

「死の社会学はじめに」(11枚) 2001年2月 岩波書店『死の社会学』

「死の社会学おわりに」(16枚) 2001年2月 岩波書店『死の社会学』

「自死遺児について」(44枚) 2001年2月 岩波書店『死の社会学』

「あしながおじさんの人間像」(50枚)

『あしながおじさん物語』1985年3月 サイマル出版会

「遺児作文集に寄せて」(49枚)